



## 4.暮らしにかしこく鉄道利用を取り入れるためのヒント

「週1回、月1回から」と言われてもピンとこないかもしれませんが、みなさんの暮らしに鉄道利用を取り入れるチャンスは、日常生活の様々な場面にあります。

その一例を紹介しますので、お出かけの際は、まず、「鉄道が使えないか」を最初に考えてみましょう。そこからみなさんのアクションが始まります。

<p>駅の駐車場を使って、鉄道に乗り換えてみよう！ </p> <p>○渋滞を心配して、家を早く出る必要がなく、家族との時間が増えるかも！？ ○鉄道の時間を意識したタイムマネジメントができるようになるかも！？</p> 	<p>自転車で駅に行って、鉄道に乗り換えてみよう！ </p> <p>○車内では、勉強や読書をしたり、リラックスしたり、自由に時間を使うことができます。 ○運命の出会いが待っているかも！？</p> 	<p>鉄道で取引先に行ってみよう！ </p> <p>○渋滞で約束の時間に遅れることはありません！ ○自分で運転しない分、商談に力を入れられるかも！？ ○車内で資料を確認したり、時間を有効に使えます！</p> 
<p>送迎を駅までにしてみよう！ </p> <p>○友達とおしゃべりしながら楽しく通学できます！ ○子供の頃にクルマばかり使う家に育った人は、傲慢性が高い傾向にあるという研究結果も…</p> 	<p>鉄道でちょっと遠くまでかけてみよう！ </p> <p>○車窓からしか見られない風景が楽しめます！ ○車出しや運転を押しつけられることもありません！ ○地域ならではの鉄道や駅弁など、旅行の楽しみが広がります！</p> 	<p>電車に乗って買い物に行ってみよう！ </p> <p>○駐車場探しの手間がかかりません！ ○渋滞のイライラからケンカになることもないかも！？</p> 
<p>加えて、健康にも効果大！</p>		
<p>◇自動車だけでなく、鉄道などの公共交通を使って移動するほうが運動量が多くなるため、消費カロリーが大きくなります。 ◇例えば、通勤時に、公共交通を利用している人は、自動車だけを利用している人に比べて約2.5倍のカロリーを消費しているとの試算があり、この差はスポーツジムでの運動約40分に相当します。 (出典：群馬県交通まちづくり戦略) ◇これが毎日のこととなれば、頑張らずとも、無意識のうちに運動し、健康になってしまいかもかもしれませんね！</p> 		

# どうなる？上越線。どうする！私たち。

### J R上越線利用促進アクションプログラム 【行動喚起編（概要版）】



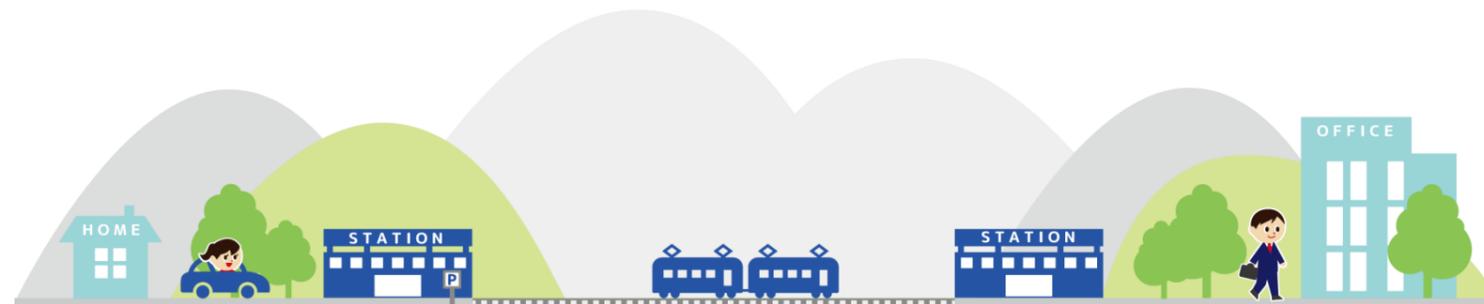
## 5. ささやかなアクションの積み重ねが大きな成果に

「週1回・月1回鉄道を利用するくらいでは何も変わらないのでは？」  
そう思っているあなた、そんなことはありません。

もし、「駅の近くに自宅や会社があっても車で通勤している1日あたり約12,300人の方」が、週1回、飲み会がある日などに上手に鉄道を利用するだけで、上越線の利用者は平日1日あたり約2,500人増加します。これは現在のの上越線の乗車人員の1割以上に相当する人数です。

決して無理にではなく、「メリットが感じられる日だけでも鉄道に乗る」ささやかなアクションの積み重ねが、将来にわたって上越線を維持・存続していくことにつながっていくのです。

このアクションプログラムは、平成30年3月に策定した「群馬県交通まちづくり戦略」に基づき、J R上越線（J R高崎駅～J R土合駅）の利用状況や役割、将来的な課題をまとめたものです。



お問い合わせ先

群馬県県土整備部交通政策課 TEL：027-226-2385

<詳細については、群馬県ホームページをご覧ください。 →  >

令和2年2月

群馬県

(関係市町村：前橋市・高崎市・沼田市・渋川市・吉岡町・片品村・川場村・昭和村・みなかみ町)

# 上越線利用促進アクションプログラム【行動喚起編】

群馬県が調査したところ、本県はクルマに大きく依存しているため、鉄道の利用者がとても少ないこと、また、少子化の影響により、通学などの利用者はさらに減少する見込みであることがわかり、上越線の存続が心配されます。

毎日の通学・通勤、ときどきの通院や買い物、そんな日常生活や、魅力ある渋川・利根沼田地域への観光誘客に、これからも上越線があり続けるため、私たちができること ―

## 1. 上越線、このままで大丈夫！？

### ところで、みなさんは上越線を使っていますか？

- 沿線（前橋市・高崎市・沼田市・渋川市・吉岡町・利根郡）にお住まいの6割近くの方は1年で1回も鉄道を利用していません。
- 渋川駅以北の駅では、地域の人口減少率を上回るペースで乗車人員が減少しています。

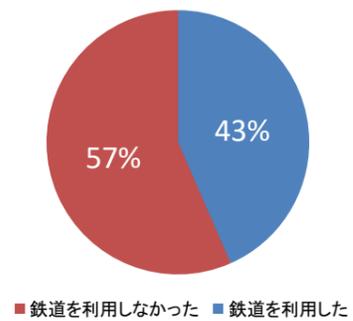


図1 ここ1年で外出時に鉄道を利用したかどうか (出典：パーソントリップ調査)

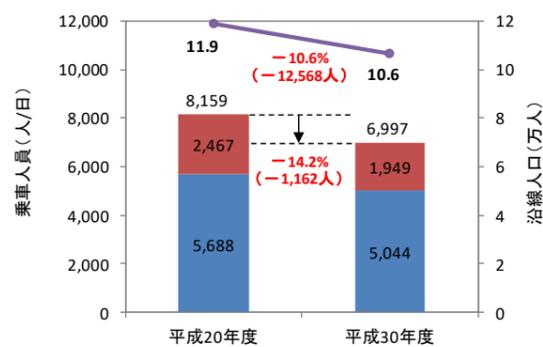


図2 乗車人員と沿線人口（渋川駅以北） (出典：JR東日本、国勢調査)

### 駅が近くにあっても使われていない？

- 上越線の1日あたりの乗車人員は平成30年度で約22,000人。（高崎駅を除く）
- 一方、駅の近くに自宅や会社があっても、車で通勤している方は1日あたり約12,300人。上越線で通勤している方はわずか7.7%。
- 同じ条件でも、通学では70%の方が上越線を利用しているのに・・・

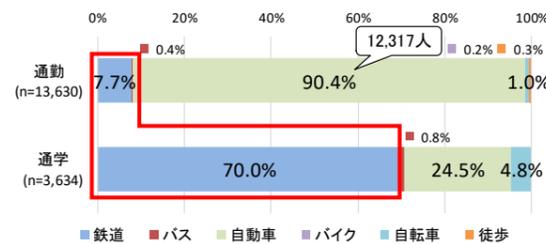


図3 駅の近くに自宅・職場(学校)がある方の交通手段の割合 (出典：パーソントリップ調査)

### 鉄道はあって当たり前なもの？

- これまでの利用と変わらなければ、20年後には、少子化の影響により、通学利用者は約39%の減少見込み。
- その他の利用が増えなければ、上越線の存続が心配されます。

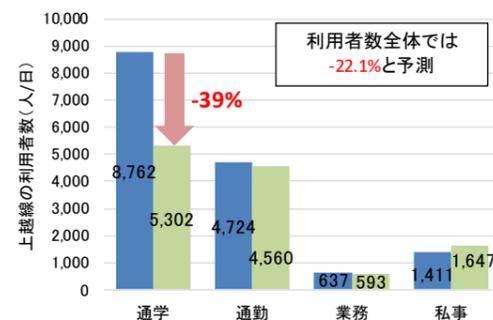


図4 利用者数の将来推計 (出典：パーソントリップ調査)

## 2. 上越線がなくなると地域はどうなる？

### 行きたい学校、会社に通えない！

- 上越線は、県北部地域と前橋・高崎、そして、北部地域の市町をつなぐ、地域内外・県内外への移動に欠かせない交通手段です。
- 毎日、国道17号や渋滞する市街地を1時間近くかけて送迎？それとも下宿？・・・事故もお金も心配。

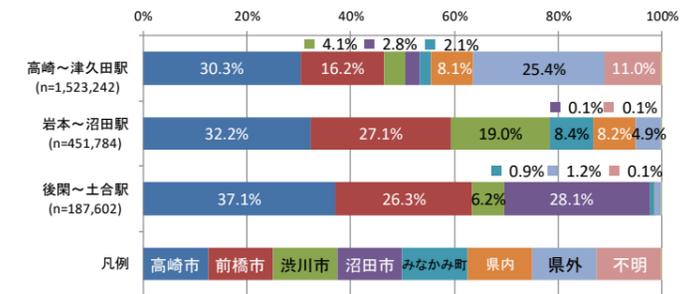


図5 利用者の乗車駅別訪問先 (出典：パーソントリップ調査)

### どんなときでも運転しなければならないのは大変！

- 上越線の利用者のうち、通院では約4割、買い物でも3割以上の方が定期的に利用。安心・豊かな暮らしを支えています。
- 病気や怪我で通院するときにも運転できますか？
- いつか運転免許証の自主返納のときが・・・

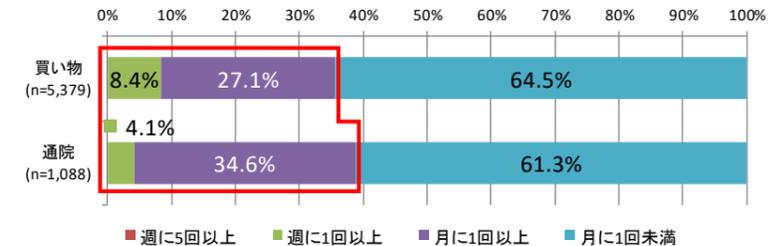


図6 目的別の利用頻度 (出典：パーソントリップ調査)

### 魅力のない地域になってしまう？

- 沿線の観光資源を活かした誘客に上越線は欠かせません。
- 上越線が担っていた、地域の魅力や愛着ある風景がなくなるという意味ではみなさんにとっても他人事ではありません。



<水上駅でのおもてなしの様子>

<伊香保温泉石段街>

## 3. あらためて考えてみる、そして、みなさんに求められるアクション

### 上越線は地域に不可欠なもの

- 上越線は、お子さんの通学のため、車を運転できない方のため、お住まいの地域と他の地域をつなげることにより、地域で暮らし続けるみなさんを支えています。
- さらには、沿線の観光の玄関口として、観光客の呼び込みに貢献するだけでなく、地域の魅力そのものを担っています。

### 週1回・月1回からの鉄道利用

- 少子高齢化・人口減少が進行する中、上越線の維持・存続のためには、観光客の一時的な利用に頼らず、通勤など日常生活の中で利用して、住民自らがしっかりと運行を支えていかなければなりません。
- みなさん一人ひとりに、週1回、月1回からでも鉄道を使う意識と行動(アクション)が必要です。**